

## CONTENTS

特集  
Special Features

## Web2.0の現在と展望

### Current Status and Challenges of Web2.0

**1194** 編集にあたって 大向一輝・橋本大也

Foreword Ikki OHMUKAI (National Institute of Informatics / The Graduate Univ. for Advanced Studies) and Daiya HASHIMOTO (Datasection Inc.)

**1195** 1. Web2.0 とは何か 橋本大也

Overview : What is Web2.0? Daiya HASHIMOTO (Datasection Inc.)

**1205** 2. Web2.0 の情報アーキテクチャ 川崎有亮

Information Architecture for Web2.0 Yusuke KAWASAKI (Recruit Co., Ltd.)

**1214** 3. Web2.0 と集合知 大向一輝

Collective Intelligence on Web2.0 Ikki OHMUKAI (National Institute of Informatics / The Graduate Univ. for Advanced Studies)

**1222** 4. ロングテールはマーケティングをどう変えるか? 水野 誠

How Will the Long Tail Reshape Marketing? Makoto MIZUNO (Univ. of Tsukuba)

**1229** 5. Web2.0 時代の個人とコラボレーション 松尾 豊

Individuals and Collaboration in Web2.0 Environments Yutaka MATSUO (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology / Global Business Research Center / Stanford Univ.)

解説  
Articles**1237** 株式の予測について—初心者のための解説— 月本 洋

On Stock Prediction Hiroshi TSUKIMOTO (Tokyo Denki Univ.)

**1243** 電子透かし技術とその応用 越前 功

Digital Watermarking and Its Applications Isao ECHIZEN (Hitachi, Ltd.)



- 1254** グリッドと SOA からみる Web サービス標準技術 WSDL と WS-ResourceFramework  
— Web サービスのインタフェース記述と実装の概要 丸山不二夫  
Explanations of Web Service Standards from the Viewpoint of Grid Computing and Service Oriented Architecture : WSDL and WS-ResourceFramework -Outline of Interface Descriptions and Implementations of Web Services Fujio MARUYAMA (Wakoh Univ.)
- 1263** 21世紀のコンパイラ道しるべ…COINSをベースにして 高水準中間表現 HIR での最適化  
渡邊 坦・藤瀬哲朗  
A Guide for Compiler Developers Using the Latest Tool - The COINS Compiler Infrastructure - : Optimization Based on the High Level Intermediate Representation HIR Tan WATANABE (Association for COINS Compiler Infrastructure) and Tetsuro FUJISE (Mitsubishi Research Institute, Inc.)
- 1273** ナレッジマネジメント マルチモーダルコモンセンス知識の構築 竹林洋一  
Knowledge Management : Multimodal Commonsense Knowledge Creation Yoichi TAKEBAYASI (Shizuoka Univ.)
- 1280** これからの情報処理学会 IPSJ 2.0 —フラット化する世界のコミュニティとしての学会像  
青山幹雄  
Thoughts about the Future IPSJ : IPSJ 2.0 : A Digital Community on the World of Flat Mikio AOYAMA (Nanzan Univ.)
- 1284** これからの情報処理学会 情報処理学会は学会活動で IT を活用しているか？  
—学術情報発信の観点から 今井 浩  
Thoughts about the Future IPSJ : Does IPSJ Utilize IT in Its Society Activities? -From the Viewpoint of Scholarly Research Communication- Hiroshi IMAI (The Univ. of Tokyo)

- 1250** オープンソース事情 OSS 人材育成 大谷 真  
Open Source Phenomena : OSS Engineer Education Makoto OYA (Shonan Institute of Technology)
- 1252** 研究会千夜一夜 情報環境 (IE) 領域における研究会活動 尾家祐二・間瀬健二  
1001 SIG Nights : An Overview of Activities in Information Environment Domain Yuji OIE (Kyusyu Institute of Technology) and Kenji MASE (Nagoya Univ.)
- 1272** 標準化よもやま話 ソフトウェアの標準化 山本喜一  
Small Talk on Standardization : Standardization of Software Yoshikazu YAMAMOTO (Keio Univ.)



その他

- |                                    |                             |
|------------------------------------|-----------------------------|
| <b>1289</b> 平成 18 年度山下記念研究賞表彰 (概要) | <b>1304</b> おふいすらん          |
| <b>1292</b> 会員の広場                  | <b>1305</b> アンケート用紙         |
| <b>1294</b> IPSJ カレンダー             | <b>1306</b> 編集室 / 次号予定目次    |
| <b>1296</b> 人材募集                   | <b>1307</b> 掲載広告カタログ・資料請求用紙 |
| <b>1301</b> 有料会告                   | <b>1308</b> 賛助会員のご紹介        |
| <b>1302</b> 有料会告について               |                             |



# 編集子独白

- editor's monologue -

原爆の問題に代表される“技術と社会との関係”は、情報の世界にももちろん存在する。むしろ現代では、情報関係技術が社会に与える影響が非常に大きいので、情報関係者はこの問題を強く意識している必要があろう。たとえば「技術は中立か」という問いかけがある。ところが現代社会では、技術と社会は同時進行的に相互作用しながら進歩・変遷をしてきているので、この問いかけ自体が意味をなさないという主張もある。本号の特集は「Web2.0の現在と展望」。大向一輝、橋本大也がエディタ。Web2.0と呼ばれる“一連の動き”についての多角的な解説である。技術が社会に影響を与え、その社会がさらに新しい技術の開発を促すという、技術と社会両者の関係が読み取れると思う。集合知とかロングテールなどのキーワードの解説もある。個人的には、社会のすべての人々が全力疾走していなければならない、あるいはしているべきだ、という流れはいささか困った状況であると思うが、すでに携帯電話という甘い毒薬を飲んでしまった我々は、もはや後戻りはできないのであろう。

前号から始めた連載“これからの情報処理学会”の2回目は、「IPJSJ 2.0—フラット化する世界のコミュニティとしての学会像」（青山幹雄）と「情報処理学会は学会活動でITを活用しているか？—学術情報発信の観点から」（今井浩）の2編。「IPJSJ 2.0…」には特集で出てきた概念を交えて、「情報処理学会は…」ではさまざまな電子活動に関して、それぞれ有用かつ貴重な内容を書いていただいた。

「株式の予測について—初心者のための解説」（月本洋）は表題どおりの内容。相場用語が多いこのような内容は、そのうちに小中学校で教わることになるのだろうか。

「電子透かし技術とその応用」（越前功）はそもそもの始まりから最近の技術、そして応用範囲までの解説。これも“社会と技術”の一例。

「WSDLとWS-ResourceFramework」（丸山不二夫）は連載“グリッドとSOAからみるWebサービス標準技術”の一記事。Webサービス記述言語であるWSDLの解説が主。

「マルチモーダルコモンセンス知識の構築」（竹林洋一）は“ナレッジマネジメント”のシリーズ。“マルチモーダルコモンセンス知識”実現に向けての実践的な取り組みの紹介。

「高水準中間表現HIRでの最適化」（渡邊坦、藤瀬哲朗）は“21世紀のコンパイラ道しるべ”のシリーズ。COINSが扱ういろいろな命令レベルのうち、比較的上位のを扱うやり方。

「OSS人材育成」（大谷真）は“オープンソース事情”のシリーズ。OSSという実用的枠組みを進めるための教育の重要性を説いている。

「情報環境（IE）領域における研究会活動」（尾家祐二、間瀬健二）は連載“研究会千夜一夜”のスタート記事。魅力ある研究の紹介もある。

「ソフトウェアの標準化」（山本喜一）は“標準化よもやま話”の1つ。サービスマネジメントやアクセシビリティ対応まで広がってきた国際標準の重要性を示している。（Kuwm）



会誌編集委員会

編集長

川合 慧

担当理事

石田 亨

長谷川 亨

本号エディタ

天野 真家

大谷 真

大向 一輝

片山 博

兼宗 進

木戸 彰夫

久門 耕一

坂井 修一

坂本 直志

白木 善尚

鈴木 貢

田中 哲朗

田中 穂積

土井美和子

橋本 大也

比屋根一雄

前田 英作

間瀬 久雄

松井くにお

三浦健次郎

安信千津子

編集スタッフ

後路 啓子

町田 善江

綿谷 亜樹

## ■ 47 巻 11 号掲載広告目次（五十音順）

インタフェース……………表 4  
 オー・ティ・ビー……………目次前上  
 オーム社……………表 2 対向  
 科学技術振興機構……………目次前下

講談社……………前付最終下  
 情報処理学会短期集中セミナー……………表 2  
 ソフト・リサーチ・センター……………前付最終上

\*掲載広告のカタログ・資料をご希望の方は、お名前、電話番号、勤務先または学校名を明記の上、E-mail または Fax にてご請求ください。

広告総代理店 (株) 精機通信社  
 E-mail:sei@ss-com.co.jp  
 Fax(03)3368-1519